外国人住民との共生ハンドブックの背景と外国人住民との活動の始め方について

2026年10月29日

公益財団法人　笹川平和財団
中東・イスラムユニット　社会イノベーショングループ
研究員　岩品 雅子

笹川平和財団
SASAKAWA PEACE FOUNDATION

ハンドブック作成の背景と目的

笹川平和財団
SASAKAWA PEACE FOUNDATION

1. 受入れ国実態調査と非集住地域への関心

① 集住地域では既に多くの取り組みがなされている。
② 日本全国で見た場合、地域間格差が大きい。
③ 非集住地域では、集住地域と同様の予算、人材、経験の蓄積を備えることは現状では困難。

2. 実態調査の結果、確認されたこと

① 非集住地域でも既に各地で多くの先進的な取り組みがなされている。
② 外国人住民の多様性（一時的な働き手、留学を経て長期的にキャリアを伸ばす方）
③ ライフステージに応じて変わるニーズ
④ 受入れる地域社会の特性や課題の多様性（都市部と地方農村部で異なる自治体としての予算や人員の規模、地域社会の資源（大学やNPO等 [支援団体など]、各種公的施設など）の有無や多寡
⑤ 多くの地域は、「外国人住民との接点の作り方と始め方」について知見を求めている。
⑥ 先進的な取り組みを実践している地域では、「連携」、「コーディネーション」ができている。
⑦ 画一的な万能薬があるというよりも、地域ごとに異なる資源を活かした取り組みが必要。
⑧ 外国人住民の側でも、地域のイベントや地域課題への取り組みに参加している。
⑨ 地域住民の方は、不和ではなく調和を、軋轢ではなく相互理解を求めている。

SPF Confidential | Do not copy, reproduce or distribute.

笹川平和財団 SASAKAWA PEACE FOUNDATION

1. 『外国人住民との共生ハンドブック～受入れの基本姿勢と取り組み事例集』の制作

- 対象者：非集住地域の自治体職員および地域社会の支援者（NPO等）の方々。
- 「外国人住民との活動の始め方」および、多様な好事例をご紹介
- 「共生」について：お互いを支え合える関係を構築し、その互恵的な関係の中で安心して生きていくこと。
- 今回、このハンドブックを全国の市区町村、都道府県、都道府県の国際交流協会にお送りさせていただきました。



ハンドブックは、笹川平和財団のウェブサイトからダウンロードいただけます。

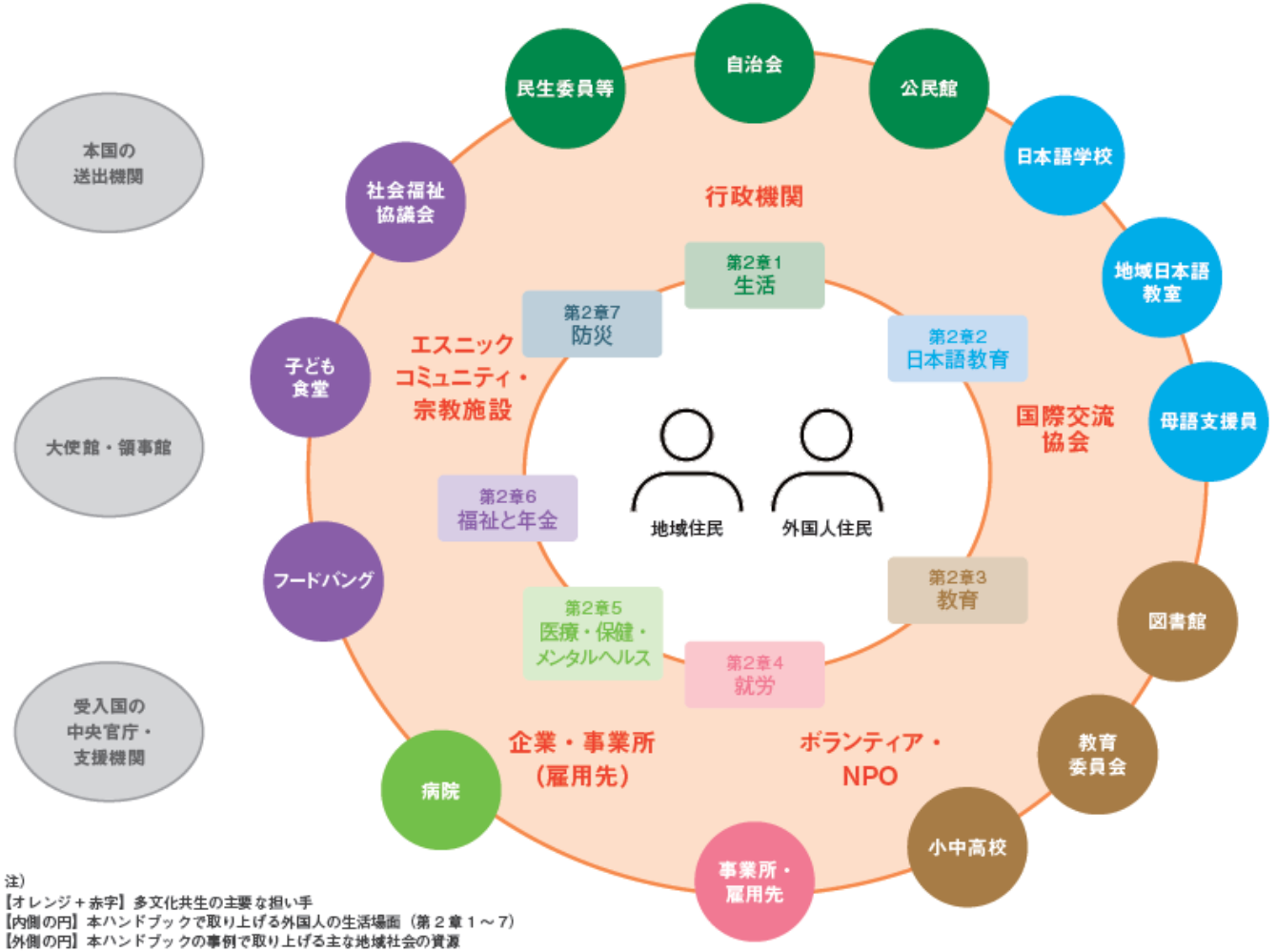
https://www.spf.org/social-innovation/publications/20260617.html

SPF Confidential. Do not copy, reproduce or distribute.

活用可能な地域社会の資源と主な担い手

笹川平和財団
SASAKAWA PEACE FOUNDATION

■活用可能な地域社会の資源と主な担い手は、地域によって異なり、すべてを持っている地域は多くない。



注）
【オレンジ＋赤字】多文化共生の主要な担い手
【内側の円】本ハンドブックで取り上げる外国人の生活場面（第２章１～７）
【外側の円】本ハンドブックの事例で取り上げる主な地域社会の資源
【欄外（グレー）】地域外の資源

共生のための仕組みづくり

笹川平和財団
SASAKAWA PEACE FOUNDATION

■ 基礎自治体における調整や連携のはじめ方

1．入口づくり～外国人住民との接点の確保

既存の地域資源（受入企業や地域の方々）と外国人住民当事者の意見を聴きながら、機会を作っていくことが重要

- 自治会長等、地域の関係者（自治会・民生委員等）や、外国人従業員を受入れている企業等からのヒアリング
- 役所窓口における多言語対応、やさしい日本語の活用
- 地域のお祭りや、料理教室等、公民館等のイベントへの外国人住民の参加呼びかけ
- 地域の防災訓練への外国人住民の参加呼びかけ
- カフェやイベントなど、外国人住民が参加できる機会づくり

2．体制づくり～地域の関係機関・団体との連携

3．ニーズ把握～基礎自治体におけるアンケート調査

4．施策化～アクションプランの策定と予算の確保

5．参画促進～住民会議や協議会等への外国人住民の参加

SPF Confidential. Do not copy, reproduce or distribute.

本ハンドブックで取り上げている事例

笹川平和財団
SASAKAWA PEACE FOUNDATION

（図表0-4）事例マップ



全国的な取組み
case 18（医療・保健・メンタルヘルス）
国際臨床医学会

石川県
case 23（防災）
金沢市（NPO）
多文化協働ネットワーク

新潟県
case 14（教育）
上越市・（公社）上越国際
交流協会・上越教育大学

北海道
case 8（生活）
函館市・（一財）北海道国際交流センター



case 16（就労）
苫小牧市 HISAE日本語学校

滋賀県
case 22（防災）
草津市

兵庫県
case 26（防災）
（NPO）神戸定住
外国人支援センター

秋田県
case 17（就労）
Pour Bébé/秋田市/
ハローワーク秋田マザーズコーナー

佐賀県
case 4（共生のための仕組みづくり）
（公財）佐賀県国際交流協会



case 5（共生のための仕組みづくり）
（認定NPO）法人地球市民の会

福岡県
case 12（日本語教育）
苅田町

茨城県
case 15（教育）
県立石下紫峰高校・
（認定NPO）
茨城NPOセンター・コモンズ



熊本県
case 6（共生のための仕組みづくり）
県全域 Kumamoto Kurasu
case 1（共生のための仕組みづくり）
天草市 ワールドフレンズ天草



case 3（共生のための仕組みづくり）
玉名郡玉東町 玉東町/
Orange Network
case 7（渡航前研修）
桜十字グループ
case 13（日本語教育）
菊池市
case 27（防災）
（NPO）
くまもと災害ボランティア団体ネットワーク

愛媛県
case 9（生活）
今治市
case 25（防災）
四国電熔工業有限会社

静岡県
case 11（日本語教育）
浜松市
（NPO）フィリピノナガイサ

千葉県
case 2（共生のための仕組みづくり）
印西市国際交流協会

徳島県
case 24（防災）
板野郡北島町／
（NPO）YOU＆ゆう

三重県
case 10（生活）
鈴鹿市・（公財）鈴鹿国際交流教会
case 20（医療・保健・メンタルヘルス）
三重大学医学部附属病院・
（公財）三重県国際交流財団

東京都
case 19（医療・保健・メンタルヘルス）
（NPO）アジア人文文化交流促進協会
case 21（福祉と年金）
新宿区 在日韓国人福祉会

入り口づくり～最初のヒアリングとNPOや企業との関係づくり：熊本県と新宿区の事例

笹川平和財団
SASAKAWA PEACE FOUNDATION

■Kumamoto Kurasu（産官学・外国人コミュニティ・市民社会のネットワーク）：関心のある方々の夕食会からスタート

➡ 参加者が増え、徐々に外国人住民のコミュニティ・リーダーも参加するようになった。

➡ 現在、様々な業種やNPOを含む46団体と個人が参加。「外国人受入れに必要な情報がここで揃う」という状況に。

■新宿区：新宿区多文化共生連絡会を四半期に１回開催。外国人受入れに関わっている団体や個人が、現在の活動と今後の予定を共有している。

➡ 専門分野外のお問合せやご要望を聞いた際に、「あの団体に相談してみよう」というきっかけに。

SPF Confidential. Do not copy, reproduce or distribute.

入り口づくり～地域の防災訓練への外国人住民の参加呼びかけ：徳島県北島町

笹川平和財団
SASAKAWA PEACE FOUNDATION

■地元の NPO が、地域の高齢者や子どもたちのための活動、防災訓練を行っていた。その頃から、町役場との連携を進めていた。

■地元の NPO メンバーが、近所に外国人住民が住んでいることに気が付いた。➡「そういえば、外国人住民との接点が無い」

■町の防災訓練に外国人住民も誘って一緒に参加した。➡地元の高校生と一緒に「外国系住民防災訓練ツアー」を企画し、実施。

- ●ハザードマップの確認
- ●避難体験
- ●AEDを使った救命救急など

SPF Confidential. Do not copy, reproduce or distribute.

ニーズ把握～基礎自治体におけるアンケート調査：愛媛県今治市の事例

笹川平和財団 SASAKAWA PEACE FOUNDATION

- 市内の外国人住民は約4,400人、そのうち3,200人が技能実習と特定技能。これらの外国人住民の生活上の問題点が聞こえてこない。
- 外国人住民への全数アンケートを実施（https://www.city.imabari.ehime.jp/siminsankaku/tabunka-kyosei-plan/siryo.pdf）
  - ➡ 方法① 市職員によるアンケート票配布。
    方法② 郵送
  - ➡ 依頼文書は、やさしい日本語のほか、英語、中国語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語で900人から回答あり。

    - 約８割の外国人住民が日本人との交流を希望。
    - ９割以上がスマートフォンを持っているため、プッシュ型情報配信が可能だとわかった。
    - 不安なことは保健医療と防災。



資料編　各種調査からみる状況

SPF Confidential. Do not copy, reproduce or distribute.

好事例に共通する特徴

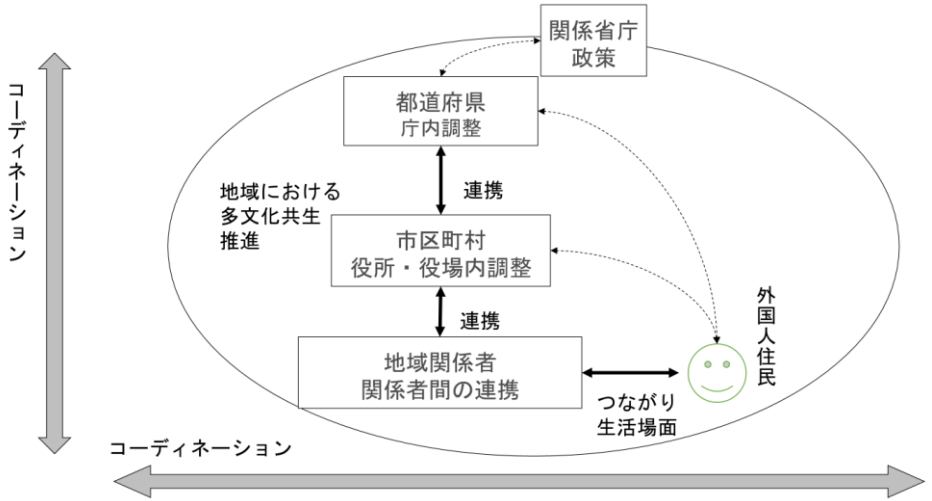
笹川平和財団
SASAKAWA PEACE FOUNDATION

- **どの地域にとっても最善かつ最適な万能薬があるのではなく、地域社会の資源の活用がカギ**
- **分野横断的な関係者間の連携とコーディネーション**

  地域内の他組織（横）および都道府県や省庁の仕組み（縦）との連携
- **広域連携**

  県国際交流協会や県庁等の積極的な関与による県内での経験共有・人材育成
- **日本人住民と外国人住民との協働による地域との関わり・相互理解促進から始まる街づくり（エスニック・コミュニティとの連携）**
- **多文化対応力**

  文化的背景の異なる相手を理解し、
  その価値、態度、信仰などを尊重
  すること。
- **セーフスペース (居場所) を作ること**
- **ヘイトスピーチを助長しないこと**



SPF Confidential. Do not copy, reprodu

ありがとうございました。

SPF Confidential. Do not copy, reproduce or distribute.